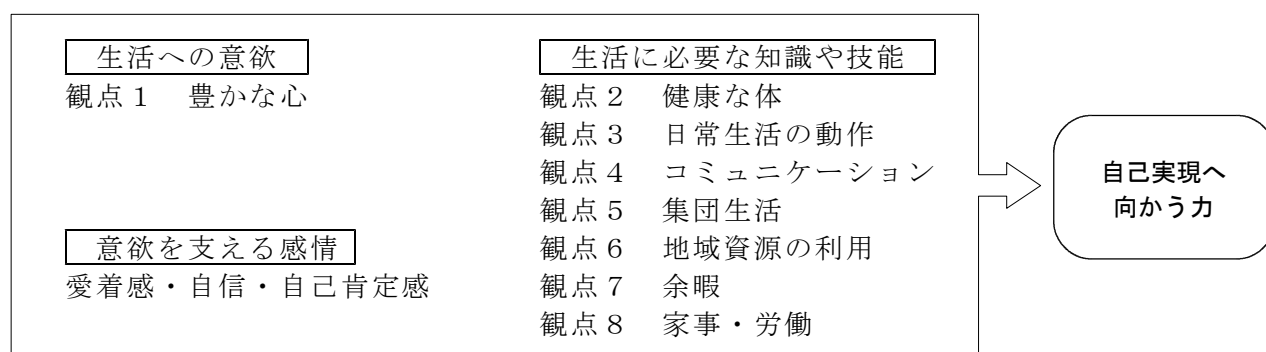


- 1 派遣期日 平成23年10月21日（金）
- 2 研修先 学校名 新潟大学教育学部附属特別支援学校
所在地 〒951-8535 新潟県新潟市中央区西大畑町5214
<http://www.ginzado.ne.jp/~sunayama/>
- 3 研修内容

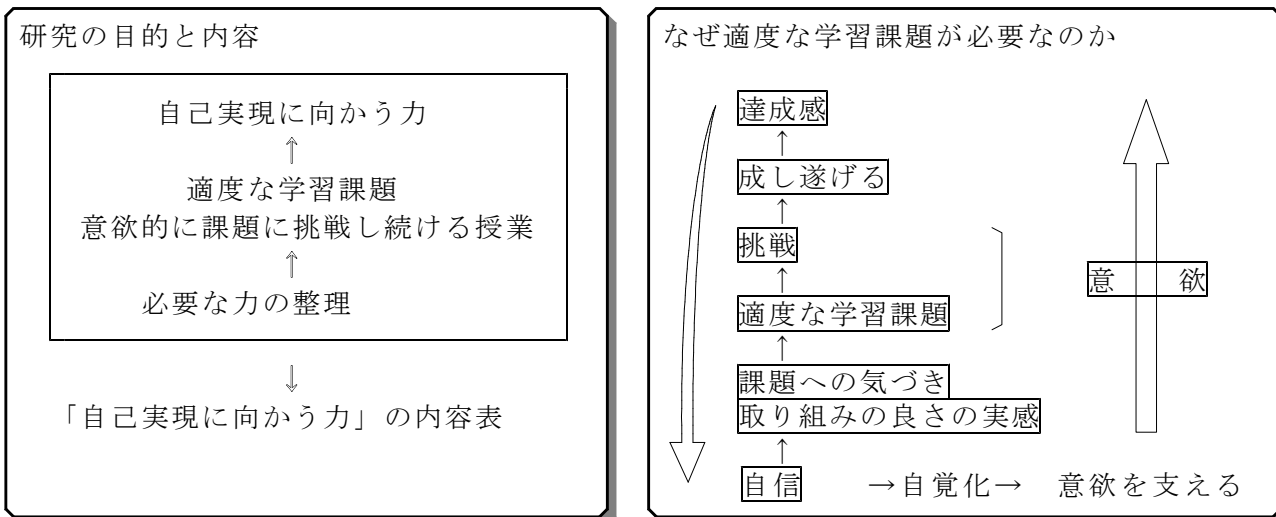
新潟大学教育学部附属特別支援学校 第34回 特別支援教育研究会
明日をきり拓く「自己実現に向かう力」を育てる支援
—子どもが自ら意欲的に課題に挑戦し続ける授業— 第2年次

(1) 全体発表

①「自己実現に向かう力」



②子どもが自ら意欲的に課題に挑戦し続ける授業づくり



目指す授業 《5つの視点》

授業計画レベル

視点1 適度な学習課題の設定の工夫

授業実践レベル

視点2 意欲を喚起するための工夫

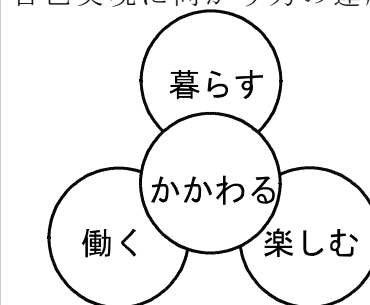
視点3 進んで活動に取り組むための工夫

視点4 喜び・認め合うための工夫

授業評価・改善レベル

視点5 適度な学習課題や授業の評価・改善の工夫

自己実現に向かう力の連続性



職業教育の充実

(2) 公開授業

①小学部

「友達や教師と思いを共有し、進んで人とのかかわったり役割に取り組んだりする授業」

◇小学部 1 組 遊び学習 「小麦粉で遊ぼう」

◇小学部 3 組 生活単元学習 「おいしいクッキーをプレゼントしよう」

小学部では、将来、より良い社会参加を果たすためには、「人とのかかわる力」や「役割に取り組む力」を育てることが大切であると考え、「遊び学習」「生活単元学習」を取り上げて研究を進めている。活動に繰り返し取り組むことで、人とのかかわる良さの実感を積み重ねて、進んで人とのかかわる力や役割に取り組む力を高める授業を展開していた。

②中学部

「働く楽しさや大切さを実感し、意欲的に製作活動に取り組む姿を育む授業」

◇製作班 A 「喜んで使ってもらえる製品を作ろう」 ハンガーラックの製作

◇製作班 B 「私たちの布封筒を作ろう」 布封筒の製作

中学部では、作業学習の授業の在り方を追求し、研究を進めている。製作活動において、生徒に一人でできた実感をもたせたり、購入者からの称賛や要望を目的意識へと高めたりすることで、製作への意欲と自分への自信を高める授業を展開していた。

③高等部

「働くことの意義を見出し、自らの課題にチャレンジする姿を目指した授業」

◇ワークコース 「『飲食サービス』に関する業務から学ぼう」 喫茶店業務

◇ジョブ A コース リネン部 「喜ばれる『仕事』をしよう」 クリーニング作業
製作部 「正しい『働き方』を身につけよう」 入浴剤製作

高等部では、生徒が「卒業後に働くこと」への意識を確かなものにしながら自らの目標達成に向けて意欲的に取り組める授業を目指している。ワークコースでは卒業後一般企業で働くことを目指す生徒が、ジョブコースでは福祉作業所等で働くことを目指す生徒がそれぞれの目標を意識して、生き生きと取り組んでいた。

(3) 分科会（中学部）

○中学部で育てたい内容

「働くことへの前向きな思い」

①働くことへの興味・関心 ②役割を果たすことへの理解 ③働くことに必要な力の習得
「学習活動の構造化」



- ・製作活動を通して、働く楽しさやできた喜びを実感することで自信を高める。
- ・販売活動では称賛される喜びを、見学・体験活動では働くことの大切さを実感することで、働くことへの必要な力である意欲を高める。

(4) 講演会

「自己決定を育て、自己実現を支援する」

—「自分で選ぶ」から「自己理解」「就労」へ—

講師：新潟大学教育学部附属特別支援学校 長澤 正樹校長
新潟大学教育学部特別支援教育専修 教授

4 感想

今回の研修を通して、学校内だけでなく地域と連携していくことで、人とのかかわりが生まれ、その中で働くことの充実感や自己有用感を感じさせることができ、社会と自分をしっかりと結びつけ、社会参加する上での自信となっていくということを実感することができた。

今後は、特別支援教育の中での「キャリア教育」のポイントをしっかりと押さえて、子どもたち一人一人の自立と社会参加を目指した授業、特に中学部作業学習について、工夫改善に努めていきたい。